

《履修上の留意事項》【遠隔授業のみ実施】

《担当者名》○熊谷 歌織 唐津 ふさ 神田 直樹 高木 由希 伊藤 加奈子 高橋 啓太 前川 真湖 清水 博美
秋野 愛菜

【概 要】

成人病態論 ・ で学ぶ治療や病態の理解を基盤として、慢性的な健康問題をもつ人やその家族への看護と、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開の実際を学ぶ。

【学習目標】

1. 慢性的な病気や治療が患者や家族に与える影響を理解し、患者が療養法を生活の中に取り入れ実践していくための具体的な看護援助を考え説明できる。
2. 成人期の特徴を捉えた看護過程（情報収集から看護計画立案まで）の展開をすることができる。
3. 難病の療養法と、療養法が患者に与える影響を理解し、求められる看護援助について説明できる。
4. 感覚器の疾患をもつ患者が置かれる状況を理解し、求められる看護援助について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	感覚器疾患患者の看護	口腔，耳鼻咽喉疾患を持つ患者の理解と看護 眼疾患を持つ患者の理解と看護	熊谷
2	感覚器疾患患者の看護	皮膚疾患を持つ患者の理解と看護	熊谷
3	難病患者の看護	筋萎縮性側索硬化症の病態と療養法 病気・障害が患者・家族に及ぼす影響と看護援助	唐津
4	難病患者の看護	炎症性腸疾患の病態と療養法	伊藤
5	難病患者の看護	難病が患者・家族に及ぼす影響と看護援助	伊藤
6	1～5回のまとめ	これまでの講義で学んだことをもとに、対象者の看護についての課題レポート を提出	熊谷
7	看護過程の展開	セルフケアアセスメントの方法の理解 セルフケア看護論を用いた看護過程の展開とアセスメント	熊谷
8	看護過程の展開	事例の概要の把握	熊谷 神田
9	看護過程の展開	グループワーク：病態関連図の作成	熊谷・唐津・神田・高木・伊藤・高橋・前川・清水・秋野
10	看護過程の展開	グループワーク：セルフケアアセスメント	熊谷・唐津・神田・高木・伊藤・高橋・前川・清水・秋野
11	看護過程の展開	グループワーク：セルフケアアセスメント	熊谷・唐津・神田・高木・伊藤・高橋・前川・清水・秋野
12	看護過程の展開	セルフケアアセスメントの振り返り 看護過程における全体像の描写と目標設定	熊谷

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		看護計画の立案における考え方と方法	
13	看護過程の展開	全体像の記述と看護目標の設定	熊谷
14	看護過程の展開	看護計画の立案	熊谷
15	看護過程の展開	看護計画の評価 看護過程全体の振り返り 看護過程に関する課題レポートの提出	熊谷

【評価方法】

定期試験60% 課題レポート40%

→課題レポート 40% 課題レポート 60%

課題レポート は、評価を明記し返却し希望者に対し個別に開示しフィードバックを行う。

【備考】

教科書：1. 系統看護学講座 専門 成人看護学 5 消化器 医学書院

参考書：1. 系統看護学講座 専門 成人看護学 7 脳・神経 医学書院
2. 系統看護学講座 専門 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院
3. 系統看護学講座 専門 成人看護学 13 眼 医学書院
4. 系統看護学講座 専門 成人看護学 12 皮膚 医学書院

【学習の準備】

看護過程の展開の講義は、1年生時の成人看護学（セルフケアアセスメント）、1・2年生時の看護技術論の看護過程の復習をした上で臨むこと。また、グループワークには事前に課題に取り組んだうえで臨むこと。なお事前・事後学習には、内容により各回30～90分を必要とする。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP 2、1、4

【実務経験】

熊谷 歌織(看護師) 唐津 ふさ(看護師) 神田 直樹(看護師) 高木 由希(看護師) 伊藤 加奈子(看護師) 高橋 啓太(看護師)
前川 真湖(看護師) 清水 博美(看護師) 秋野 愛菜(看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における看護師としての実務経験を活かし、患者のセルフケア能力の維持・向上のために必要な看護実践を考えるプロセスについて、演習を通して学びを深められるよう支援する。また、難病患者や感覚器に病気を抱える患者の看護について、具体的な実践例を交え講義を行う。